

# 第14回現地会議 in 岩手 報告書

作成：NPO 法人いわて連携復興センター／東日本大震災支援全国ネットワーク岩手担当

## 【はじめに】

現地会議は集う方々同士が生み出す「場」の力を大切に、多様な参加者による課題解決の糸口をその中で模索してきました。東日本大震災から6年以上が経過し、今なお残る被災地の課題は「個別化」「複雑化」「深刻化」の様相を呈しています。それは震災前からの地域課題と密接に関連しているからに他なりません。「被災者の課題」と「被災地の課題」は違います。JCNが市民団体をベースとしたマルチセクターネットワークであることを踏まえ、我々が現地会議という「場」でできることは何か。その答えもまた変化し続けていることを自覚し、本会を企画及び実施いたしました。

## 【タイトル】

第14回現地会議 in 岩手 -いま、このまちで、子どもたちに伝えるべきこと-

## 【目的】

今年度第1回目となる今回は、震災以降地域の将来的な担い手として期待される子どもたちへの支援やメッセージが現場の課題と展望に直結することを踏まえ、「今、本当に子どもたちに伝えるべきこと」を多様な視点から学び、次の展開を見出すヒントとなることを目的とする。そして「子どもたちへ伝えるべきこと」を通して、このまちをどうしていきたいか、復興をどうしていきたいかを検討し、あわせて参加するNPOや市民等の地域とセクターをこえた交流と連携促進の場となることも狙い実施する。

## 【日時】

平成29年9月7日（木）14:00～17:15

## 【場所】

陸前高田市コミュニティホール 大会議室（岩手県陸前高田市高田町字栃ヶ沢210番地3）

## 【内容】

冒頭、陸前高田市様よりまちの現状と課題についてお話し

してもらい、参加者はじぶんのまちの課題について翻って考える時間となりました。その後6名のスピーカーより「子どもたちに伝えたいこと」というテーマで一人ずつお話ししてもらい、その後参加者と登壇者を交えた交流と質疑および意見交換の時間を設けました。

ー以下発言要旨ー

<陸前高田市の現状と課題>

菅野隼氏（陸前高田市役所 まちづくり戦略室）

「陸前高田市の状況を通じて自分のまちを考える」～一人一人が輝ける世界に誇れる街を目指して～  
移転により、バラバラになったコミュニティを新しく作っていく。

感じているものは、人と人が直接つながる大切さ。顔と顔を実際に見ながら話すことがベースである。まちづくりを進めていく全ての土台は人である。人は誰かと関わり合いながら生きている。他人を思い合ってつながり合うことがまちづくりの一步になるのでは。

.....



<いま、このまちで子どもたちに伝えたいこと>

#### 1. 花坂雄大氏（花坂印刷工業㈱専務取締役／NPO 法人みやっこベース理事長）

「つながる・広がる」をテーマに。

子供達に伝えることとして、踏み込むことで得られるものは、3つ「やりがい、信頼、仲間」あると話す。そしてやっていくことで新たなつながりが生まれ、ひろがっていく。それが非常に楽しい。だからこそ子どもたちにもそれを味わってほしい。

#### 2. 舟田春樹氏（オフィス・ふなだ）

学生と地域の子供が交流しているが、その中で、大学生は力を付けていく。中高生は進路を決めていく。子供達に何をやっていきたいかという答えは、大人から引き継いでいくものが答えではないか。

色々な分野でスキルを身に着け、貴重な人材となって何を町に貢献するのか、多様な分野で、それらがつながることでもまちづくりになる。

#### 3. 上野拓也氏（一般社団法人おらが大槌夢広場副代表理事）

「自律的で持続可能な社会を目指して～子供達に伝えるべきこと」

自律的で持続可能な大槌になるため、意識 スキル 知識の中でも 意識付けが大事と思う。少しずつ少しずつの意識付けが大事だと思う。遊びを通したりするプロセスの中で。感じる心、受け止める親、場所を醸成していきたい。そして子どもたちが「たくさん遊べる」環境にしていく。

#### 4. 鈴木匠（NPO 法人釜石東部漁協管内復興市民会議理事・事務局長）

先人が伝えてくれたもの。自分たちが子供の時、なにをつたえてもらったのか？を考える。津波のことがあったから今がある。命の大切さその知恵。世界中が考えること。肝心なのは、これをいかに継続するかである。昔の年寄り、さんざん伝えてきた。が、それでも忘れる。先祖から受け継いできたことを語り継ぐべき。



#### 5. 新沼真弓氏（防災士／乾燥フルーツ ComeCome 代表）

「今、この町で、子供たちに何を伝えるべきか？」

地域の母親としての目線、防災士としての目線から。

地域課題は多様。少子高齢化、なり手不足、また、三陸地域の特性として30～40年周期で津波はくる。だからこそ残していきたいのは「自然と共生する知恵」「減災レジリエンス」「自助力共助力協働」「次世代のために考え行動する大人たちの姿」という点。

#### 6. 長谷川順一氏（㈱長谷川建設代表取締役）

子供達に伝えたいこと。自分に矢印を向けられる人間になること。ヒトのせいにする 것도、他人をあてにする 것도含めて、人はすぐ他人に矢印を与えてきた。自分があてにされるように。もうひとつは、常に疑問を持つように。すべてにおいて疑問を持ち続けていき、考えることを止めないこと。

#### 【参加者数】

36 団体 53 名（県外団体参加者：4 名、メディア:新聞 2 社、行政関係者：4 名）

#### 【共有された課題】

スピーカーの話と参加者間の意見交換から、5つの課題が抽出され、会場で共有されました。

#### ▼産業発展と地域づくり

・地域を支え続けてきた産業が発展することで関連する多様な仕事が創出され雇用を増大し、まちの経済基盤を整える。地域において必要不可欠な企業活動は、今後市民活動と切り離して考えられるものではなく、セットで考えていかなければいけない。

### ▼まちの歴史を紡ぐ

・まちの持つアイデンティティとはそこに住み暮らす人がつないできたいわゆる歴史である。先代から引き継いできた歴史を後世に伝えることがまちづくりの本質。震災によってさまざまな影響で歴史が繋がれにくい環境であるが故に、やはりもう一度子どもたちにこのまちを引き継いでいく。歴史のないまちにならぬように。

### ▼まちをつくるひとを育てる

・人こそがまちを形成する。まちづくりとはひとりづくりである。震災以前から課題だらけだったまちであるが、震災を経て一層まちを担う人材の育成が必要となる。外部から人が入ってくる機会があり、それが内の人材と交流することで、意識がうまれる。

・子どもたちが疑問をもつことを大切に。そして子どもたちが主体性を持つことを大切に。その環境は教育現場でも、家庭でも変えていける。その環境を、我々大人が自覚し創り出していける変化を生み出さなければいけない。

### ▼再び起きた時に何を活かせるか

・災害はいつでも発生する。津波は40年周期で大きいものがやってきている。大雨災害に関しては毎年のように岩手県内で起きている。このまちが復興することを待っていているわけではない。そのときに動じず、冷静に守るべきものを守り、果たせる役割を果たせるか。「心のレジリエンス」を養っていかなければいけない。

### ▼共有すべきビジョンを持つ

・それぞれが復興を目指す中で「ビジョンの乱立」状態から、マルチセクターによるビジョンの共有化をめざして。このまちが何をアイデンティティとして復興を果たしていくのか、次世代とともに共有しながらビジョンを持つ。違うことが悪いことではなく、それぞれが目指しているものを知り、理解することが大事。

### 【解決へのきっかけ／現地会議を通したつながり】

▼行政・企業・NPO・士業など多様な立場のスピーカーから、「いま、このまちで、子どもたちに伝えたいこと」という切り口で課題を話してもらうことで、いま被災地岩手にある課題を多角的にあぶりだすことができた。

▼課題に対する解決策は参加した一人ひとりの中で考え、実行していくものである。ゆえに大切なのはこの「場」を通じて「考え抜き実行しきる覚悟」を再確認することであった。次世代に向けたメッセージでありながら、「我々が何をすべきか」ということを導き出す今回のテーマ設定が、その目的に合致し、目指す課題解決に貢献した。



▼現地会議を通じて、とくに後半の意見交換の中で参加者間の新たなつながりが生まれた。例えば釜石のNPOスタッフが本会の出会いを通じて、大船渡の防災活動へ団体として視察に行くことが決まるなど、今後の地域課題解決に大いに必要となる「市町村を越えた県内団体同士の連携」に寄与することができた。

### 【県外への発信】

〈中継配信〉：Facebook ライブ動画によるインターネット中継配信を実施。アカウントはいわて連携復興センターのものを使用。再生数は591回、シェア3件、「いいね」12件、コメント2件。

〈JCNメインメーリングリストによる配信〉：9/11、登壇者発言要旨を配信。

〈JCNレポート〉：次号掲載予定。

〈JCNweb サイト〉：[http://www.jpn-civil.net/2014/activity/genchi\\_kaigi/170907\\_iwate.html](http://www.jpn-civil.net/2014/activity/genchi_kaigi/170907_iwate.html)

【メディア掲載】

岩手日報



東海新報



【運営】

共同主催：NPO 法人いわて連携復興センター／東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）

協力：NPO 法人陸前高田まちづくり協働センター／大船渡市市民活動支援センター／NPO 法人アットマークリアス NPO サポートセンター／

※本会は『しんきんの絆』復興応援プロジェクト」第5回助成を受けて実施いたしました。

